

ENGLISH
GRAMMAR
STEP BY STEP

NEW
PERSPECTIVES
A BRIGHTER
FUTURE

受動態

— 伝わる英語が、もっと広がる —

THE PASSIVE VOICE
A BRIDGE TO A WIDER WORLD

伝えたいことは、
もっと伝わる。

受け取る側から見える、
新しい英語の世界へ。



The dog
is loved by many people.



This airplane
is made in Japan.



This bridge
was built hundreds
of years ago.



Our future
can be changed
by what we do today.



English
is spoken
around the world.

見える世界が変われば、
英語はもっと自由になる。



GRAMMAR

READING

WRITING

COMMUNICATION

English
can be a bridge
to a brighter future.

Ideas
are born
when we
look at
things
differently.

- (1) 受動態についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 主語が動作を行う側であることを表し、基本的に〈主語＋動詞＋目的語〉の形をとる。
 - ② 主語が動作を受ける側であることを表し、基本的に〈be 動詞＋過去分詞〉の形をとる。
 - ③ 主語が進行中の動作を行っていることを表し、基本的に〈be 動詞＋現在分詞〉の形をとる。
 - ④ 主語が過去に行った動作を表し、動詞を過去分詞に変えるだけで作ることができる。
- 〈日本語で確認〉受動態とは、主語が「～する側」ではなく、「～される側」となる表現である。
- (2) 能動態と受動態の関係について、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 能動態の主語を受動態の主語にし、能動態の目的語を〈by＋目的格〉にする。
 - ② 能動態の目的語を受動態の主語にし、動詞を基本的に〈be 動詞＋過去分詞〉にする。
 - ③ 能動態の目的語を受動態の主語にするが、動詞は能動態と同じ形のままにする。
 - ④ 能動態の他動詞を自動詞に変え、その前に be 動詞を置くことで受動態を作る。
- 〈日本語で確認〉「A が B を～する」から「B が A によって～される」へ書き換えるとき、B に当たる語が受動態の主語になる。
- (3) 次の2文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- (A) Many people use this room.「多くの人々がこの部屋を使います。」
- (B) This room is used by many people.「この部屋は多くの人々によって使われています。」
- ① (A)では this room が目的語であり、(B)ではそれが主語となって「使われる側」を表している。
 - ② (A)では Many people が目的語であり、(B)では by many people が受動態の主語になっている。
 - ③ (A)と(B)では主語が異なるため、表している出来事もまったく異なっている。
 - ④ (B)の used は過去形であり、is used 全体で現在進行形を表している。
- (4) 次の動詞とその過去分詞の組み合わせとして、正しいものを1つ選びなさい。
- ① write — written ② speak — spoke
 - ③ take — took ④ give — gave
- (5) 次の動詞とその過去分詞の組み合わせとして、正しいものを1つ選びなさい。
- ① see — saw ② break — broken
 - ③ choose — chose ④ steal — stole
- (6) 次の動詞とその過去分詞の組み合わせとして、正しいものを1つ選びなさい。
- ① know — knew ② throw — threw
 - ③ begin — began ④ build — built
- (7) 次の動詞とその過去分詞の組み合わせとして、正しいものを1つ選びなさい。
- ① eat — ate ② do — did
 - ③ make — made ④ sing — sang
- (8) 次の動詞とその過去分詞の組み合わせとして、正しいものを1つ選びなさい。

① go — went ② drive — drove

③ wear — wore ④ tell — told

〈日本語で確認〉受動態では〈be 動詞＋過去分詞〉を用いるため、過去形と過去分詞を区別して覚えることが重要である。

- (9) will invite を受動態にした形として、正しいものを 1 つ選びなさい。

① will invited ② will be invite

③ will be invited ④ be will invited

〈日本語で確認〉will invite「招待する」を「招待される」という受動態にするときの形を考える。

- (10) have to finish を受動態にした形として、正しいものを 1 つ選びなさい。

① have to finished ② have been finished

③ have to be finished ④ be had to finish

〈日本語で確認〉have to finish「終えなければならない」を「終えられなければならない」という受動態にするときの形を考える。【Ⅲ】受動態と時制

- (11) 受動態の時制についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① 受動態では過去分詞そのものの形を変えることによって、現在・過去などの時制を表す。

② 受動態では主に be 動詞などの形によって時制を表し、中心となる動詞は過去分詞の形をとる。

③ 受動態では過去分詞を用いるため、基本的に過去の出来事しか表すことができない。

④ 受動態では be 動詞を常に現在形にして、時を表す副詞だけによって時制を区別する。

- (12) (12)次の 3 文と時制の組み合わせとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

(A) English is spoken in many countries.「英語は多くの国で話されています。」

(B) This bridge was built fifty years ago.「この橋は 50 年前に建てられました。」

(C) The work will be finished tomorrow.「その仕事は明日終わられるでしょう。」

① (A)現在 (B)過去 (C)未来

② (A)過去 (B)現在 (C)未来

③ (A)現在 (B)未来 (C)過去

④ (A)未来 (B)過去 (C)現在

- (13) (13)助動詞を含む受動態についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① 助動詞の後ろに過去分詞を直接置き、〈助動詞＋過去分詞〉とする。

② 助動詞の後ろに be を置き、〈助動詞＋be＋過去分詞〉とする。

③ 助動詞を過去形に変え、〈助動詞＋been＋現在分詞〉とする。

④ be 動詞の後ろに助動詞を置き、〈be＋助動詞＋過去分詞〉とする。

- (14) This computer can be used by anyone.「このコンピューターは誰でも使うことができます。」この英文についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① can が時制を表し、used は過去形なので「以前使うことができた」を表す。

② can の後ろに〈be＋過去分詞 used〉を置き、「使われることができる」という受動の関係

を表す。

③ can の後ろでは必ず過去分詞を用いるので、be は受動態とは関係がない。

④ used が「使われる」を表すので、be を取り除いて can used としても同じ意味になる。

- (15) 現在完了の受動態の基本形として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① have / has+過去分詞 ② have / has+be+過去分詞

③ have / has+been+過去分詞 ④ am / is / are+been+過去分詞

- (16) The room has been cleaned already.「その部屋はすでに掃除されています。」この英文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① has cleaned が現在完了を表し、been は受動の意味を加える副詞である。

② <has+been>で現在完了の枠組みを作り、been は be の過去分詞、cleaned は clean の過去分詞で受動の関係を表している。

③ been cleaned は過去形の受動態なので、has は時制とは関係がない。

④ cleaned が過去の時制を表しているため、has been は省略しても意味は変わらない。

- (17) 受動態の否定文の作り方として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① be 動詞の後ろに not を置き、<be+not+過去分詞>とする。

② 過去分詞の後ろに not を置き、be 動詞の位置は変えない。

③ do / does / did+not を用い、be 動詞を取り除く。

④ 過去分詞を原形に戻し、その前に not を置く。

- (18) This room is used every day.「この部屋は毎日使われます。」これを否定文にしたものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

① This room does not used every day.

② This room is not use every day.

③ This room is not used every day.

④ This room does not be used every day.

- (19) 受動態の疑問文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① be 動詞を主語の前に出し、過去分詞は主語の後ろに残す。

② 過去分詞を主語の前に出し、be 動詞はもとの位置に残す。

③ Do / Does / Did を主語の前に置き、be 動詞を原形に戻す。

④ be 動詞と過去分詞をまとめて主語の前に移動する。

- (20) English is spoken in Canada.「英語はカナダで話されています。」これを「英語はカナダで話されていますか。」という疑問文にしたものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

① Does English spoken in Canada?

② Is spoken English in Canada?

③ Does English be spoken in Canada?

④ Is English spoken in Canada?

- (21) Was this temple built 300 years ago?「この寺は300年前に建てられたのですか。」この英文についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 過去形の受動態で、was を主語 this temple の前に出して疑問文にしている。
- ② 現在形の受動態で、built が過去を表すため was を用いている。
- ③ 過去進行形で、built は「建てている」という進行中の動作を表している。
- ④ 現在完了の受動態で、「これまでに建てられたことがある」という経験を表している。
- (22) 他動詞と受動態の関係について、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 他動詞は直接目的語をとることができ、その目的語を受動態の主語にできる。
- ② 他動詞は直接目的語をとらないため、原則として受動態を作ることができない。
- ③ 他動詞は必ず前置詞を伴って目的語をとり、その前置詞を取り除いて受動態を作る。
- ④ 他動詞を受動態にするときは、まずその動詞を意味の近い自動詞に変える。
- (23) 自動詞が原則として受動態にできない理由として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① 自動詞には過去分詞が存在しないから。
- ② 自動詞は直接目的語をとらず、受動態の主語に移す目的語がないから。
- ③ 自動詞は現在形でしか使用することができないから。
- ④ 自動詞には be 動詞を付けることが文法上できないから。
- (24) 次の 2 文について、受動態を作ることができるものとできないものの違いを説明したものと
して、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- (A) Tom opened the door.「トムはドアを開けました。」
- (B) Tom arrived at the station.「トムは駅に到着しました。」
- ① open は直接目的語 the door をとる他動詞なので受動態を作ることができる。一方、arrive は自動詞で、at the station は直接目的語ではないため、同じ方法では受動態を作れない。
- ② open も arrive も他動詞だが、the door は物なので受動態の主語にでき、the station は場所なので受動態の主語にできない。
- ③ open は他動詞で、arrive も他動詞だが、arrive は前置詞 at を伴う場合に限って受動態を作ることができない。
- ④ open も arrive も自動詞だが、open は過去形と過去分詞が同じ形なので受動態を作ることができる。
- (25) He arrived at the station.「彼は駅に到着しました。」これを The station was arrived ... とできない理由として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- ① arrive は自動詞であり、the station は arrive の直接目的語ではなく、前置詞 at の目的語だから。
- ② arrive は他動詞だが、場所を表す名詞を目的語にする場合には受動態を作ることができないから。
- ③ arrive は他動詞だが、過去形 arrived と過去分詞 arrived が同じ形なので受動態にできないから。
- ④ arrive は自動詞だが、受動態にするときには at を by に変えなければならないから。
- (26) listen と hear の受動態についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① listen も hear も基本的に自動詞なので、どちらも直接目的語をとらず、その目的語を主語にして受動態をすることはできない。

② listen も hear も基本的に他動詞なので、どちらも直接目的語をとり、その目的語を主語にして受動態を作ることができる。

③ listen は基本的に自動詞なので直接目的語をとらないが、hear は基本的に他動詞なので、直接目的語を主語にして受動態を作ることができる。

④ listen は基本的に他動詞なので直接目的語をとるが、hear は基本的に自動詞なので、直接目的語を主語にして受動態をすることはできない。

〈日本語で確認〉listen と hear では、直接目的語をとることができるかどうか注目して、受動態との関係を考える。

(27) look の受動態についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① look は基本的に自動詞なので直接目的語をとらず、look at ～の形になっても自動詞である以上、受動態をすることはできない。

② look は基本的に自動詞なので単独では直接目的語をとらないが、look at ～を一まとまりとして考えると、at の目的語を主語にして受動態を作ることができる。

③ look は基本的に他動詞なので直接目的語をとることができ、look at ～を受動態にするときには前置詞 at を取り除かなければならない。

④ look は基本的に自動詞なので単独では直接目的語をとらないが、look at ～の受動態では at を by に変えて動作を受ける対象を表す。

〈日本語で確認〉look 単独では直接目的語をとらないが、look at ～のような〈動詞＋前置詞〉を一まとまりとして扱う場合には受動態を作ることができる。

(28) He is seemed happy.「彼は幸せそうに思われる。」が誤りである理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① seem は「～と思われる」と訳されることがあるが、自動詞であり、能動態の形で用いる。直接目的語をとらないため受動態にはできず、He seems happy.とする。

② seem は「～と思われる」という意味の他動詞であり、能動態では目的語をとるが、人を主語にする場合には受動態にすることができない。

③ seem は「～と思われる」と訳される自動詞なので、能動態ではなく受動態で用いるが、現在形では is seemed ではなく is seeming とする。

④ seem は「～と思われる」という意味の他動詞なので受動態にできるが、He を主語にする場合には is seemed ではなく was seemed とする。

〈日本語で確認〉「思われる」という日本語だけで受動態と判断せず、seem が自動詞か他動詞か、目的語をとるかどうかから考える。× He is seemed happy.○ He seems happy.「彼は幸せそうに見える／幸せそうに思われる。」【VI】日本語につられやすい受動態

(29) I was stolen my wallet.×「私は財布を盗まれました。」この英文が不適切である理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。

① steal は他動詞で、Someone stole my wallet.の目的語は my wallet であるため、

受動態では My wallet を主語にする。

② steal は他動詞なので受動態にできるが、人を表す I を主語にする場合には必ず現在形を用いる。

③ steal は他動詞なので my wallet を目的語として残したまま受動態にできるが、was ではなく is を用いる。

④ steal は他動詞だが、物を目的語にとる場合には受動態を作ることができない。

- (30) Someone stole my wallet.「誰かが私の財布を盗みました。」↓My wallet was stolen.「私の財布は盗まれました。」この書き換えについての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① steal は他動詞で、目的語 my wallet を受動態の主語にする。元の文が過去形 stole なので、be 動詞を過去形 was とし、steal を過去分詞 stolen にする。

② steal は他動詞で目的語 my wallet を主語にするが、過去分詞 stolen が過去の時制を表すため、be 動詞には現在形 is を用いる。

③ steal は他動詞なので、目的語 my wallet をそのまま残し、元の主語 Someone を I に変えて I was stolen my wallet とする。

④ steal は他動詞で目的語 my wallet を主語にするが、受動態では過去形 stole をそのまま用いて My wallet was stole とする。

- (31) stand を「立っている」という自動詞の意味で使って、「彼はそこに立っていた」と表したい場合、He was stood there. が不適切である理由として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① stand を「立っている」という自動詞として用いる場合、He は動作を受ける側ではなく自ら立っている側であり、直接目的語もないため〈was+stood〉という受動態にはしない。

② stand を「立っている」という意味で用いる場合は他動詞となり、He を目的語として考えるため〈was+stood〉という受動態にする。

③ stand は自動詞だが、過去形 stood と過去分詞 stood が同じ形なので、〈was+stood〉とすれば過去の能動態を表すことができる。

④ stand は自動詞なので受動態にはできないが、過去を表す場合には〈was+stood〉ではなく〈did+stood〉としなければならない。× He was stood there.○ He stood there. / He was standing there.「彼はそこに立っていました。」

- (32) He was standing in front of the door then.「彼はそのときドアの前に立っていました。」この英文についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

① stand はここでは自動詞で、He 自身が立つ側である。過去のある時点で立っている最中だったので、過去進行形〈was+standing〉を用いる。

② stand は自動詞だが、自動詞も受動態にできるため、過去の時制を was で表し、過去分詞 stood を用いる。

③ stand は他動詞で、He が動作を受ける側なので〈was+stood〉とするが、継続を表す場合だけ standing に変える。

④ stand は他動詞で、過去の時制は過去分詞 stood によって表すが、進行中の場合だけ stood を standing に変える。

- (33) 「彼女は長い間待ちました。」を表す英文として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① She was waited for long.
- ② She waited for a long time.
- ③ She was waited during a long time.
- ④ She was waiting by a long time.【VII】動詞＋前置詞・句動詞の受動態

- (34) They looked after the child.「彼らはその子どもの世話をしました。」これを受動態にしたものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① The child was looked.
- ② The child was looked after.
- ③ The child looked after.
- ④ The child was after looked.

- (35) 「その少年はクラスメートたちに笑われました。」という意味になるように、()に入る最も適切なものを1つ選びなさい。The boy was laughed () by his classmates.

- ① at ② to ③ with ④ for

- (36) 動詞＋前置詞からなる表現を受動態にするときの説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- ① 動詞と前置詞を一まとまりとして扱い、受動態になっても必要な前置詞を残す。
- ② 動詞と前置詞を一まとまりとして扱うが、受動態では前置詞を必ず by に変える。
- ③ 前置詞の目的語は受動態の主語にできないので、このような表現は受動態にできない。
- ④ 前置詞を取り除き、動詞だけを〈be＋過去分詞〉にすればよい。

- (37) Tom wrote this letter.「トムがこの手紙を書きました。」

- ① Tom was written this letter.
- ② This letter was wrote by Tom.
- ③ This letter was written by Tom.
- ④ This letter is written by Tom.

- (38) She loves him.「彼女は彼を愛しています。」

- ① Him is loved by she.
- ② He is loved by her.
- ③ He loves by her.
- ④ Her is loved by him.

- (39) People speak English in this country.「この国では人々は英語を話します。」

- ① English speaks in this country.
- ② English is speaking in this country.
- ③ English is spoken in this country.
- ④ English is spoke in this country.【IX】talk / speak / say / tell

- (40) talk についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
 ① 基本的に自動詞として用い、talk to / with 人、talk about 物事などの形をとる。
 ② 基本的に他動詞として用い、talk + 人 + 内容の形をとる。
 ③ 言語を直接目的語にとり、talk English の形で用いる。
 ④ 必ず 2 つの目的語をとる、SVOO の形で用いる。
- (41) speak についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
 ① speak は常に自動詞で、直接目的語をとることはない。
 ② speak to 人などでは自動詞的に用いるが、speak English のように言語を直接目的語にとることもできる。
 ③ speak は常に他動詞なので、「彼に話す」は speak him とする。
 ④ speak は言語を目的語にできるが、その場合でも受動態にはできない。
- (42) He said something strange.「彼は何か奇妙なことを言いました。」
 ① He was said something strange.
 ② Something strange was said by him.
 ③ Something strange was say by him.
 ④ Something strange said by him.
- (43) say と tell についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
 ① say は主に内容を目的語にとり、tell は〈人 + 内容〉の 2 つの目的語を続けることができる。
 ② say は〈人 + 内容〉を直接続けるが、tell は内容しか目的語にできない。
 ③ say も tell も基本的に自動詞なので、直接目的語をとらない。
 ④ say も tell も常に同じ文型で自由に置き換えることができる。
- (44) She told me the truth.「彼女は私に真実を話しました。」これを「私は彼女から真実を聞かされました。」という受動態にしたものとして、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
 ① I was told the truth.
 ② I was said the truth.
 ③ Me was told the truth.
 ④ I told the truth by her.【X】be made of / from / into
- (45) This desk is made of wood.「この机は木でできています。」
 ① be made of は、材料の性質・形が比較的残っていて、何でできているか分かる場合に用いる。
 ② be made from は、材料の性質・形が比較的残っている場合に用いる。
 ③ be made into は、完成品からその材料を見る場合に用いる。
 ④ be made of は、物を作った人や動作主を示す場合に用いる。
- (46) Wine is made from grapes.「ワインはブドウから作られます。」
 ① be made from は、原料が加工・変化し、完成品からもとの形が分かりにくい場合に用いる。

- ② be made of は、原料が加工されてもとの形が分からなくなった場合に用いる。
③ be made into は、完成品から原料を見る場合に用いる。
④ be made from は、物を作った人や動作主を表す。
- (47) Grapes are made into wine.「ブドウはワインに加工されます。」
① be made into は、材料・原料を主語にして、それが何になるのかという完成品を into の後ろに置く。
② be made into は、完成品を主語にして、その完成品が何からできているかを表す。
③ be made from を用いて Grapes are made from wine.とするのが正しい。
④ be made of を用いて Grapes are made of wine.とするのが正しい。
- (48) be made of / from / into の違いについて、最も適切なものを1つ選びなさい。
① of / from は「完成品→材料・原料」という見方をし、into は「材料・原料→完成品」という変化を表す。
② of は変化後の完成品を表し、into は作った人を表す。
③ from は動作主を表し、into は材料そのものを表す。
④ of / from / into には基本的な意味の違いがなく、自由に交換できる。
- (49) 感情を表す動詞についての説明として、最も適切なものを1つ選びなさい。
① surprise や interest は「驚く」「興味を持つ」という自動詞としてのみ用いられる。
② surprise や interest は「～を驚かせる」「～に興味を持たせる」という他動詞として考えることができる。
③ surprise や interest は目的語をとるが、その目的語に人を置くことはできない。
④ surprise や interest は他動詞だが、感情を表す場合には受動態にできない。
- (50) The news surprised me.「その知らせは私を驚かせました。」↓ I was surprised at the news.「私はその知らせに驚きました。」
① surprise は他動詞で、目的語 me を主語 I にして受動態を作る。元の文が過去形なので、was surprised とする。
② surprise は他動詞で、目的語 me を主語 I にするが、過去分詞 surprised が時制を表すので am surprised とする。
③ surprise は自動詞なので、主語 The news を I に変えて was を加える。
④ surprise は他動詞で受動態にできるが、元の文の時制に関係なく be 動詞は現在形にする。
- (51) Music interests me.「音楽は私に興味を持たせます。」↓ I am interested in music.「私は音楽に興味があります。」
① interest は「～に興味を持たせる」という他動詞で、目的語 me を主語 I にして am interested とする。
② interest は「興味を持つ」という自動詞で、music を目的語にするため in を加えている。
③ interest は他動詞だが、interested が現在形なので be 動詞に am を用いる。

- ④ interest は他動詞だが、受動態では目的語ではなく元の主語 Music を新しい主語にする。
- (52) The movie was exciting, and I was very excited about it.「その映画はわくわくするようなもので、私はその映画にとっても興奮しました。」
- ① exciting は「興奮している側」、excited は「興奮させる側」を表す。
 ② exciting は「興奮させるような側」、excited は「興奮を感じる側」を表す。
 ③ exciting と excited には意味の違いはなく、自由に交換できる。
 ④ 人には必ず exciting を用い、物には必ず excited を用いる。【XII】受動態と前置詞
- (53) 次の組み合わせのうち、すべて正しいものを 1 つ選びなさい。
- ① be interested in / be satisfied with / be known for
 ② be interested at / be satisfied to / be known with
 ③ be interested with / be satisfied in / be known at
 ④ be interested for / be satisfied about / be known of
- (54) 次の 2 文についての説明として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。
- (A) He is known to everyone.「彼はみんなに知られています。」
 (B) He is known for his kindness.「彼は親切なことで知られています。」
- ① to は「知られている相手」を表し、for は「知られている理由・特徴」を表す。
 ② to は「知られている理由」を表し、for は「知っている人」を表す。
 ③ to も for も動作主を表すので、どちらも by に置き換えられる。
 ④ to と for には意味の違いがなく、自由に交換できる。【XIII】SVOO・SVOC・句動詞
- (55) My mother gave me this watch.「母は私にこの腕時計をくれました。」
- ① I was given this watch by my mother.
 ② I was gave this watch by my mother.
 ③ Me was given this watch by my mother.
 ④ I gave this watch by my mother.
- (56) They call him Ken.「彼らは彼をケンと呼びます。」↓ He is called Ken.「彼はケンと呼ばれています。」
- ① him は目的語なので受動態の主語 He となり、補語 Ken はそのまま残る。
 ② him は補語なので受動態の主語 He となり、目的語 Ken はそのまま残る。
 ③ Ken が目的語なので受動態の主語となり、him は by him に変える。
 ④ call は自動詞なので、本来は受動態にできないが、この表現だけは例外である。
- (57) They took care of the dog.「彼らはその犬の世話をしました。」
- ① The dog was taken care.
 ② The dog took care of.
 ③ The dog was taken care of.
 ④ The dog was took care of.【XIV】総合判断
- (58) 次のうち、文法的に正しい英文を 1 つ選びなさい。

- ① I was stolen my bicycle yesterday. ×「私は昨日自転車を盗まれました。」
 ② He was arrived at the airport at noon. ×「彼は正午に空港に到着しました。」
 ③ English is spoken in many parts of the world. 「英語は世界の多くの地域で話されています。」
 ④ She was waited a long time at the station. ×「彼女は駅で長い間待ちました。」
- (59) 受動態を判断・作成するときの考え方として、最も適切なものを1つ選びなさい。
- ① 日本語に「～される」という表現があれば、英語でも必ず「be＋過去分詞」を用いる。
 ② 過去形の動詞を過去分詞に変えるだけで、受動態を作ることができる。
 ③ まず動詞が目的語をとるかを確認し、能動態の目的語を受動態の主語にできるか考え、時制に応じた「be 動詞＋過去分詞」を用いる。
 ④ 主語が人なら能動態、主語が物なら受動態を用いるのが基本である。
 〈日本語で確認〉「～された」「～と思われる」という日本語だけで受動態と判断せず、英語の動詞が自動詞か他動詞か、直接目的語をとるかを確認する。

(1)② (2)② (3)① (4)① (5)② (6)④ (7)③ (8)④ (9)③ (10)③
 (11)② (12)① (13)② (14)② (15)③ (16)② (17)① (18)③ (19)① (20)④
 (21)① (22)① (23)② (24)① (25)① (26)③ (27)② (28)① (29)① (30)①
 (31)① (32)① (33)② (34)② (35)① (36)① (37)③ (38)② (39)③ (40)①
 (41)② (42)② (43)① (44)① (45)① (46)① (47)① (48)① (49)② (50)①
 (51)① (52)② (53)① (54)① (55)① (56)① (57)③ (58)③ (59)③

受動態 総合演習 | 解答解説

(1) 正解②:主語が動作を受ける側となり、
 〈be 動詞＋過去分詞〉を用いる

[解説]受動態は「～する」ではなく「～される」というように、主語が動作を受ける側になる表現です。基本形は〈be 動詞＋過去分詞〉で、This room is used every day.「この部屋は毎日使われます」のように表します。①は主語が動作を行う能動態、③は〈be＋V-ing〉の進行形の説明です。④のように過去分詞だけにしても受動態にはならないため、②が正解です。

(2) 正解②:能動態の目的語を受動態の主語にし、〈be 動詞＋過去分詞〉にする
 [解説]受動態を作るときは、まず能動態の目的語 O を受動態の主語 S に移します。たとえば Tom opened the door. では the

door が目的語なので、The door was opened by Tom.となります。元の主語 Tom は必要に応じて〈by＋目的格〉で表します。能動態の主語をそのまま受動態の主語にするのではないため①③④は誤りで、②が正解です。

(3) 正解①:(A)の目的語 this room が、(B)では受動態の主語になっている

[解説](A) Many people use this room.では、Many people が「使う側」で、this room が「使われる対象」、つまり目的語です。これを受動態にすると、目的語 this room が主語となり、This room is used by many people.となります。能動態の O → 受動態の S という変化がポイントです。used はここでは過去形ではなく過去分詞なので、①が正解です。

(4) 正解①: write — written

[解説]write の活用は write — wrote — written なので、過去分詞は written です。②speak — spoke、③take — took、④give — gave はいずれも「原形—過去形」の組み合わせで、過去分詞ではありません。それぞれの過去分詞は spoken、taken、given です。受動態では過去形ではなく過去分詞を使うため、①が正解です。

(5) 正解②: break — broken

[解説]break の活用は break — broke — broken なので、過去分詞は broken です。①see — saw、③choose — chose、④steal — stole はいずれも過去形を示しています。それぞれの過去分詞は seen、chosen、stolen です。不規則動詞では過去形と過去分詞が異なるものが多いため、3つの形を区別して覚える必要があります。

(6) 正解④: build — built

[解説]build の活用は build — built — built で、過去形と過去分詞が同じ built になります。一方、①know — knew、②throw — threw、③begin — began はすべて過去形で、それぞれの過去分詞は known、thrown、begun です。不規則動詞には「過去形＝過去分詞」となるタイプもあるため、④が正解です。

(7) 正解③: make — made

[解説]make の活用は make — made — made なので、過去分詞は made です。①eat — ate、②do — did、④sing — sang はいずれも過去形で、過去分詞はそれぞれ eaten、done、sung となります。受動態の〈be＋過去分詞〉では made を用い、This cake was made by my mother. のように表すため、③が正解です。

(8) 正解④: tell — told

[解説]tell の活用は tell — told — told なので、過去分詞は told です。①go — went、②drive — drove、③wear — wore はすべて過去形で、それぞれの過去分詞は gone、driven、worn です。過去形と過去分詞が同じ動詞と異なる動詞を正確に区別する必要があるため、④が正解です。

(9) 正解③: will be invited

[解説]will invite「招待する」を受動態にすると、**〈will＋be＋過去分詞〉**の形にします。invite の過去分詞は invited なので、will be invited「招待されるだろう」となります。助動詞 will の直後は動詞の原形なので be が必要であり、①will invited や②will be invite は誤りです。また、語順を be will とする④も誤りなので、③が正解です。

(10) 正解③: have to be finished

[解説]have to finish は「終えなければならない」という能動の形です。finish を「終わられる」という受動の関係にするには、have to の後ろを**〈be＋過去分詞〉**として、have to be finished とします。①は be がなく、②have been finished は現在完了の受動態です。④be had to finish は be の位置も had の使用も不適切なので、③が正解です。

(11) 正解②: 時制は主に be 動詞などの形で表し、中心となる動詞は過去分詞にする

[解説]受動態では、中心となる動詞は過去分詞の形を保ち、時制は主に be 動詞や助動詞の形によって表します。たとえば is used「使われる」、was used「使われた」、will be used「使われるだろう」のようになります。used そのものが現在・過去・未来を区別しているわけではありません。過去分詞＝過去時制ではないため、②が正解です。

(12) 正解①: (A)現在・(B)過去・(C)未来

[解説](A) is spoken は〈is+過去分詞〉なので現在の受動態、(B) was built は〈was+過去分詞〉なので過去の受動態です。(C) will be finished は〈will+be+過去分詞〉なので未来の受動態となります。

spoken・built・finished だけを見て時制を判断するのではなく、その前の be 動詞や助動詞を見ることが重要です。したがって①が正解です。

(13) 正解②:〈助動詞+be+過去分詞〉

[解説]助動詞を含む受動態は、**〈助動詞+be+過去分詞〉**の語順になります。たとえば can use「使うことができる」は can be used「使われることができる」、must finish「終えなければならない」は must be finished「終えられなければならない」となります。助動詞の直後には動詞の原形が必要なので be を置き、その後ろに過去分詞を続けます。したがって②が正解です。

(14) 正解②:can+be+used で受動態を作っている

[解説]This computer can be used by anyone.では、can の後ろに原形 be、その後ろに use の過去分詞 used が置かれています。つまり can+be+過去分詞 で「～されることができる」という受動の関係を作っています。used はここでは過去形ではなく過去分詞であり、時制を単独で表しているわけではありません。be を省略することもできないため、②が正解です。

(15) 正解③:have / has+been+過去分詞

[解説]現在完了の受動態は、現在完了〈have / has+過去分詞〉と受動態〈be+過去分詞〉を組み合わせ、**〈have / has+been+過去分詞〉**となります。been は be の過去分詞です。たとえば They have

finished the work.を受動態にすると、The work has been finished.となります。②の be ではなく been を用いるため、③が正解です。

(16) 正解②:has+been で現在完了、cleaned で受動の関係を表す

[解説]The room has been cleaned already.は〈has+been+cleaned〉という現在完了の受動態です。been は be の過去分詞、cleaned は clean の過去分詞で、「その部屋が掃除される」という受動の関係を表します。cleaned だけが過去時制を表しているわけではなく、has been を省略することできません。したがって②が正解です。

【IV】受動態の否定文・疑問文

(17) 正解①:〈be+not+過去分詞〉

[解説]受動態の否定文では、be 動詞の直後に not を置きます。This room is used.「この部屋は使われる」なら、This room is not used.「この部屋は使われない」となります。受動態では be 動詞がすでにあるため、一般動詞の否定文のように do / does / did を用いる必要はありません。したがって①が正解です。

(18) 正解③:This room is not used every day.

[解説]もとの文 This room is used every day.は〈is+過去分詞 used〉の受動態です。否定文にするときは be 動詞 is の後ろに not を置き、is not used とします。①は does と used を組み合わせており、②は be 動詞の後ろが原形 use になっているため誤りです。④の does not be used も受動態の否定文の作り方ではないため、③が正解です。

(19) 正解①:be 動詞を主語の前に出す

[解説]受動態の疑問文は、be 動詞の文と同じように、be 動詞を主語の前に出して作ります。English is spoken in Canada.なら、Is English spoken in Canada?となります。過去分詞 spoken の位置は変えません。また、do / does / did を加える必要もありません。したがって①が正解です。

(20) 正解④: Is English spoken in Canada?

[解説]English is spoken in Canada.は〈is + spoken〉の現在受動態です。疑問文では be 動詞 is を主語 English の前に移し、**Is English spoken in Canada?**とします。①③のように Does を用いる必要はなく、②のように spoken を主語の前へ出すこともありません。したがって④が正解です。

(21) 正解①: 過去受動態の was を主語の前に出した疑問文

[解説]Was this temple built 300 years ago?は、This temple was built 300 years ago.「この寺は 300 年前に建てられた」を疑問文にしたものです。was built は〈be 動詞の過去形 + 過去分詞〉で過去の受動態を表し、疑問文では was を主語の前に出します。built が過去形として時制を表しているわけではなく、進行形や現在完了でもないため、①が正解です。

(22) 正解①: 他動詞の目的語を受動態の主語にできる

[解説]他動詞とは、基本的に直接目的語 O をとる動詞です。Tom opened the door. では open が他動詞、the door が目的語なので、The door was opened by Tom.と受動態にできます。つまり受動態を理解するには、まず「その動詞が何を目的語にしているか」を確認することが重要です。したがって①が正解です。

(23) 正解②: 自動詞には受動態の主語に移す直接目的語がない

[解説]通常の受動態は、能動態の目的語 O を主語 S に移して作ります。しかし arrive 「到着する」や seem「～のように思われる」のような自動詞は、基本的に直接目的語をとりません。そのため、受動態の主語に移す目的語がなく、通常の目的語→主語という受動態を作ることができません。自動詞にも過去分詞そのものは存在するため①は誤りで、②が正解です。

(24) 正解①: open は他動詞、arrive は自動詞である

[解説]Tom opened the door.では、open が直接目的語 the door をとる他動詞なので、The door was opened by Tom.と受動態にできます。一方、Tom arrived at the station.の arrive は自動詞で、the station は arrive の直接目的語ではなく前置詞 at の目的語です。物か場所かではなく、動詞が直接目的語をとるかどうかがポイントなので、①が正解です。

(25) 正解①: the station は arrive の直接目的語ではなく、at の目的語である

[解説]arrive は「到着する」という自動詞なので、He arrived the station.とはせず、He arrived at the station.とします。この the station は arrive の直接目的語ではなく、前置詞 at の目的語です。そのため、通常の「目的語→受動態の主語」という書き換えで The station was arrived ...とはできません。したがって①が正解です。

(26) 正解③: listen は基本的に自動詞、hear は基本的に他動詞である

[解説]listen は基本的に自動詞なので、listen music とはせず、listen to music 「音楽を聴く」とします。一方、hear は hear

the sound「その音を聞く」のように直接目的語をとる他動詞として用いることができ、The sound was heard.のように受動態を作れます。ただし listen to ～全体では前置詞受動態を作れる場合があるため、「listen は絶対に受動態にできない」という意味ではありません。したがって③が正解です。

(27) 正解②: look は自動詞だが、look at ～全体では受動態を作ることができる

[解説] look は基本的に自動詞なので、look the picture とはせず、look at the picture とします。ただし〈look at ～〉を一まとまりとして考えれば、They looked at the picture. → **The picture was looked at by them.**のように、at の目的語を主語にした受動態を作ることができます。この場合、前置詞 at は取り除いたり by に変えたりしないため、②が正解です。

(28) 正解①: seem は自動詞なので、He seems happy. と能動態の形で表す

[解説] seem は日本語では「～のように思われる」と訳されることがありますが、英語では基本的に自動詞であり、He seems happy. という能動態の形を用います。この文は He が S、seems が V、happy が目的語 O ではなく補語 C の SVC です。直接目的語がないため受動態にはできず、×He is seemed happy. とはしません。日本語の「～れる」だけで受動態と判断しないことが重要なので、①が正解です。

(29) 正解①: steal の目的語 my wallet を受動態の主語にする

[解説] 「私は財布を盗まれた」という日本語につられて ×I was stolen my wallet. としないよう注意します。英語では Someone stole my wallet. と考え、steal の目的語は my wallet です。したがって、その目的語

を主語にして **My wallet was stolen.** とします。受動態では「日本語で被害を受けた人」ではなく、「英語の能動態で何が目的語か」を確認するため、①が正解です。

(30) 正解①: my wallet を主語にし、stole を was stolen にする

[解説] Someone stole my wallet. では、Someone が主語、stole が他動詞、my wallet が目的語です。受動態では目的語 my wallet を主語にし、元の文が過去なので be 動詞を was、steal を過去分詞 stolen とし、**My wallet was stolen.** とします。stolen そのものが過去時制を表すのではなく、was が過去を表します。したがって①が正解です。

(31) 正解①: stand を「立っている」の意味で用いる場合は自動詞である

[解説] stand を「立っている」という意味で用いる場合、He stood there. のように自動詞として使われ、He 自身が「立つ側」です。直接目的語がないため、通常の目的語→主語という受動態は作れず、「彼はそこに立っていた」の意味で ×He was stood there. とはしません。過去なら He stood there.、過去のある時点で立っている最中なら He was standing there. とするため、①が正解です。

(32) 正解①: was standing は過去進行形である

[解説] He was standing in front of the door then. では、stand は「立っている」という自動詞として用いられています。〈was + standing〉は〈be 動詞 + 現在分詞〉なので受動態ではなく過去進行形で、「そのとき立っていた」という意味になります。〈was + 過去分詞〉の受動態とは形も意味も異なります。したがって①が正解です。

(33) 正解②: She waited for a long time.

[解説]「彼女は長い間待った」の wait は「待つ」という自動詞として使われており、She waited と能動態で表します。「長い間」は for a long time なので、**She waited for a long time.** となります。日本語の意味から受動態にする必要はなく、①③④はいずれも不自然または文法的に不適切です。したがって②が正解です。

(34) 正解②: The child was looked after.

[解説]look after ～は「～の世話をする」という動詞＋前置詞のまとまりです。They looked after the child. を受動態にすると、after の目的語 the child を主語にして、**The child was looked after.** となります。受動態になっても after を取り除かないことが重要です。①は after が欠け、③は受動態になっておらず、④は語順が誤っているため、②が正解です。

(35) 正解①: at

[解説]laugh は基本的に自動詞で、「～を笑う」は**laugh at ～**と表します。They laughed at the boy. を受動態にすると、at の目的語 the boy を主語にして、**The boy was laughed at by his classmates.** となります。受動態になっても前置詞 at はそのまま残します。to・with・for ではこの意味にならないため、①が正解です。

(36) 正解①: 必要な前置詞を受動態でも残す

[解説]look after ～、laugh at ～、listen to ～などは、動詞＋前置詞を一まとまりとして考えることができます。受動態では前置詞の目的語を主語にしますが、The

child was looked after., The boy was laughed at. のように必要な前置詞は残します。前置詞を削除したり、すべて by に変えたりするわけではありません。したがって①が正解です。

(37) 正解③: This letter was written by Tom.

[解説]Tom wrote this letter. では、this letter が write の目的語なので、受動態ではこれを主語にします。元の文は過去形 wrote なので be 動詞は was、write の過去分詞は written を用いて、This letter was written by Tom. となります。②の wrote は過去形であり過去分詞ではなく、④は現在形の受動態になっています。したがって③が正解です。

(38) 正解②: He is loved by her.

[解説]She loves him. では、him が他動詞 love の目的語なので、受動態では主格の He に変えて主語にします。元の主語 She は by の後ろに置くため目的格 her となり、He is loved by her. 「彼は彼女に愛されている」となります。him や she をそのまま使うことはできず、③は受動態にもなっていません。したがって②が正解です。

(39) 正解③: English is spoken in this country.

[解説]People speak English in this country. では、speak が「英語を話す」という意味の他動詞として使われ、English が直接目的語です。これを主語にして、speak を〈is＋過去分詞 spoken〉にすると、**English is spoken in this country.** となります。spoke は過去形、spoken が過去分詞なので、④ではなく③が正解です。

【IX】talk / speak / say / tell

(40) 正解①:talk は基本的に自動詞として用いる

[解説]talk は基本的に自動詞で、talk to / with 人「人と話す」、talk about 物事「物事について話す」のように前置詞を伴います。×talk him や×talk English のように、通常は人や言語を直接目的語にはしません。また、tell のように〈人+内容〉の SVOO を作る動詞でもありません。したがって①が正解です。

(41) 正解②:speak は用法によって直接目的語をとることができる

[解説]speak は speak to him「彼に話す」のように自動詞的に用いる一方、speak English「英語を話す」のように言語を直接目的語にとる他動詞としても使えます。そのため People speak English. → English is spoken.のような受動態も可能です。常に自動詞でも常に他動詞でもないため、②が正解です。

(42) 正解②:Something strange was said by him.

[解説]He said something strange.では、say が「～を言う」という他動詞で、something strange が目的語です。これを主語にし、元の文が過去なので〈was+過去分詞 said〉として、**Something strange was said by him.**となります。say は「人に言う」の人を直接目的語にする動詞ではないので、①の He was said ...は不適切です。したがって②が正解です。

(43) 正解①:say は主に内容、tell は〈人+内容〉をとる

[解説]say は say+内容の形が基本で、say something「何かを言う」のように用います。一方、tell は tell+人+内容の形をとることができ、She told me the truth.「彼

女は私に真実を話した」のように SVOO を作れます。×say me the truth とはしません。両者は同じ「言う」でも文型が異なるため、①が正解です。

(44) 正解①:I was told the truth.

[解説]She told me the truth.は〈S+V+O₁+O₂〉の SVOO で、me が「人」、the truth が「内容」を表します。me を受動態の主語にすると主格 I になり、I was told the truth.「私は真実を聞かされた」となります。tell の代わりに say を用いて×I was said the truth.とはできません。したがって①が正解です。

【X】be made of / from / into

(45) 正解①:be made of は材料の性質・形が比較的残っている場合に用いる

[解説]be made of ～は「～でできている」を表し、完成品を見たときに材料の性質・形が比較的分かる場合に用います。This desk is made of wood.なら、desk という完成品から wood という材料を見る関係です。一方、原料が大きく変化する場合は from、材料が何に作り変えられるかを表す場合は into を用います。したがって①が正解です。

(46) 正解①:be made from は原料が加工・変化している場合に用いる

[解説]be made from ～は「～から作られる」を表し、原料が加工・変化して、完成品からもとの形が分かりにくい場合に用います。Wine is made from grapes.では、grapes が加工されて wine になっています。材料の性質が比較的残る of や、材料から完成品への変化を前向きに示す into とは区別します。したがって①が正解です。

(47) 正解①:be made into は「材料・原料→完成品」を表す

[解説]be made into ～は「～に作り変えられる」という意味で、材料・原料を主語にし、変化後の完成品を into の後ろに置きます。

Grapes are made into wine.なら「ブドウ→ワイン」という方向です。これに対して Wine is made from grapes.は「完成品→原料」という見方になります。方向を区別することがポイントなので、①が正解です。

(48) 正解①: of / from は完成品→材料・原料、into は材料・原料→完成品

[解説]This desk is made of wood.や Wine is made from grapes.では、主語は完成品で、その材料・原料を後ろに示します。一方、Grapes are made into wine.では、主語が材料・原料で、「何に変化するか」を into の後ろに示します。つまり完成品 ← of / from ← 材料・原料、材料・原料 → into → 完成品と整理できます。したがって①が正解です。

(49) 正解②: surprise や interest は「～を驚かせる・興味を持たせる」という他動詞
[解説]英語では surprise を「驚く」ではなく**「～を驚かせる」、interest を「興味を持つ」ではなく「～に興味を持たせる」**という他動詞として考えることが重要です。The news surprised me.では me が目的語なので、I was surprised ...と受動態にできます。同様に Music interests me. → I am interested in music.となるため、②が正解です。

(50) 正解①: me を主語 I にし、was surprised とする

[解説]The news surprised me.では、surprise が「～を驚かせる」という他動詞で、me が目的語です。受動態では me を主格 I にして主語とし、元の文が過去形なので be 動詞を was、surprise を過去分詞

surprised として**I was surprised at the news.**とします。surprised そのものが過去時制を表しているわけではないため、①が正解です。

(51) 正解①: interest は他動詞で、me を主語 I にして am interested とする

[解説]Music interests me.の interest は「～に興味を持たせる」という他動詞で、me が目的語です。その me を主語 I にすると、I am interested in music.「私は音楽に興味がある」となります。interested はここでは「興味を持たされた側」の状態を表します。music を受動態の主語にするわけではないため、①が正解です。

(52) 正解②: exciting は感情を起こさせる側、excited は感情を感じる側

[解説]exciting は「人を興奮させるような」という意味で、感情を引き起こす側を表します。一方、excited は「興奮させられた→興奮している」という意味で、感情を感じる側を表します。そのため The movie was exciting.「映画はわくわくするものだった」、I was excited.「私は興奮した」となります。単純に「人か物か」だけで決まるわけではないため、②が正解です。

【XII】受動態と前置詞

(53) 正解①: be interested in / be satisfied with / be known for

[解説]受動態に由来する表現では、動詞によって結びつく前置詞が決まっているものがあります。**be interested in ～「～に興味がある」／be satisfied with ～「～に満足している」／be known for ～「～で知られている」**はいずれも重要表現です。前置詞は日本語だけから自由に選ぶことはできません。したがって、すべて正しい①が正解です。

(54) 正解①:known to は相手、known for は理由・特徴を表す

[解説]He is known to everyone.の to everyone は「誰に知られているか」という知られている相手を表します。一方、He is known for his kindness.の for his kindness は「何によって知られているか」という理由・特徴を表します。to と for は同じ known の後ろでも役割が異なり、自由に交換できません。したがって①が正解です。

(55) 正解①:I was given this watch by my mother.

[解説]My mother gave me this watch.は〈S+V+O₁+O₂〉の SVOO で、me が「人」、this watch が「物」を表します。me を受動態の主語にすると主格 I になり、give を〈was+過去分詞 given〉として、**I was given this watch by my mother.**となります。gave は過去形なので②は誤りで、③は目的格 Me を主語にしているため誤りです。したがって①が正解です。

(56) 正解①:him が主語 He となり、補語 Ken はそのまま残る

[解説]They call him Ken.は〈S+V+O+C〉の SVOC で、him が目的語 O、Ken が「him=Ken」の関係を表す補語 C です。受動態では目的語 him を主語 He にし、**He is called Ken.**となります。補語 Ken は受動態になってもそのまま残ります。Ken を目的語と考える②③や、call を自動詞とする④は誤りなので、①が正解です。

(57) 正解③:The dog was taken care of.

[解説]take care of ~は「~の世話をする」という一まとまりの表現です。They took care of the dog.では the dog が前置詞 of の目的語で、これを主語にすると**The dog was taken care of.**となります。受動態でも of を残すことがポイントです。また take の過去分詞は taken なので、④の was took も誤りです。したがって③が正解です。

(58) 正解③:English is spoken in many parts of the world.

[解説]③では speak が「英語を話す」という他動詞として用いられ、English が「話される側」なので〈is+過去分詞 spoken〉の受動態が正しく作られています。①は steal の目的語 my bicycle を主語にすべきで、②の arrive は自動詞なので×was arrived とはしません。④も「彼女自身が待った」なら She waited ...と能動態にする必要があります。したがって③が正解です。

(59) 正解③:目的語を確認してから〈be 動詞+過去分詞〉を作る

[解説]受動態を判断するときに最も重要なのは、日本語の「~される」「~と思われる」という形ではなく、英語の動詞が直接目的語をとるか、その目的語を受動態の主語にできるかを確認することです。そのうえで、現在なら is / are、過去なら was / were、未来なら will be など、時制に合った形を用います。seem のように「思われる」と訳しても自動詞で受動態にしない動詞もあるため、③が正解です。